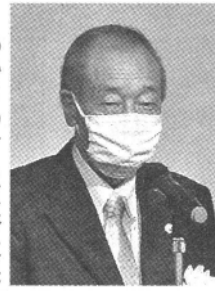


第17回研究発表会を開催

原社長、金丸氏、緒方氏が成果発表

日本建設技術(株)グループ

日本建設技術(株)(本社・唐津市北波多、原



あいさつする原裕社長

裕社長)グループは24日、唐津シーサイドホテルで2021年度研究成果発表会を開催した。関連5社の社員、来賓など約110人が出席し、原社長、同社の金丸彦一郎氏や緒方宏和氏が成果発表を行った。発表会は毎年開催していたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止。2年ぶりの開催となり、今回で17回目。

冒頭、原社長は「会社創立から67年とな

り、建設業界も大きく

変わってきている。変化の多い時代に対応するには、前向きに挑戦する姿勢が大事。何事にも耐えられる人、思い切った仕事のできる人が会社の人財として大切であり、そういう思いで仕事に取り組んでほしい。これからもスマートな会社づくりを進めるので、社員の方の協力をお願いしたい」とあいさつした。

成果発表では、企画開発戦略本部と沖繩事

第17回研究成果発表会の様子



度を低下させる特性がある」と話した。

企画開発戦略本部技術研究所の金丸所長は「クリスタルバイオの水質浄化機能と活用事例」の演題で発表。クリスタルバイオの特徴として▽多孔質構造で表面積が大きい

ため、バクテリアが繁殖しやすく、大きな硝化能力が期待できる▽軽いので、ろ過槽への充填や洗浄などのメンテナンスが楽▽比較的安価なので、導入コストを抑えることが可能▽形状が変化しにくいので、長期間使用できる▽工業製品などで安定して入手できる」などを挙げた。

建設&コンサルタント事業本部コンサルタ

ープの緒方グループ長が「ため池耐震照査における堤体下部堆積土の力学的評価に基づく調査・解析事例」をテーマに発表し、その中で「堤体の調査に当たっては堤体盛土層の力学的評価のみでなく、層圧が薄く調査時点では軽視しがちな堤体下部堆積土の力学的評価も考慮して効果的なため池耐震照査をする必要がある」と説明した。

最後に加藤合同国際特許事務所の加藤久会長が「世の中は常に変化していく。研究も変化を先取りしてやっていく必要がある」と、その研究をいかに社会に役立てるかを考え、これからの長期的な事業として取り組んでいきたい」と研究発表会の講評を行った。

このほか、社員30人の功労者表彰や新入社員紹介などが行われた。